4-414-237-**01**(3)

ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-FS30

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。
6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源コードを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

禁止

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

設置上のご注意

本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

指示

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

禁止

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

商標について

本機はドルビーデジタル*1およびDolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2およびDTS 96/24デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 米国特許番号5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で発効または申請中の特許に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、およびDTS-HDとシンボルの組み合わせはDTS, Inc.の登録商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 不許複製。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。
HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“PlayStation®”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

目次

接続と準備

再生

ラジオ

サラウンド効果

詳細な設定

その他

付属品を確かめる

- サブウーファー（1）

- スピーカー（2）

- FMワイヤーアンテナ（1）

- 光デジタル音声コード（2.5 m）（テレビ接続用）（1）

- ステレオピン-ミニプラグコード（1）

- リモコン（RM-AAU115）（1）

- 単3形乾電池（2）

- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- 「製品登録」のおすすめ（1）

リモコンに電池を入れる

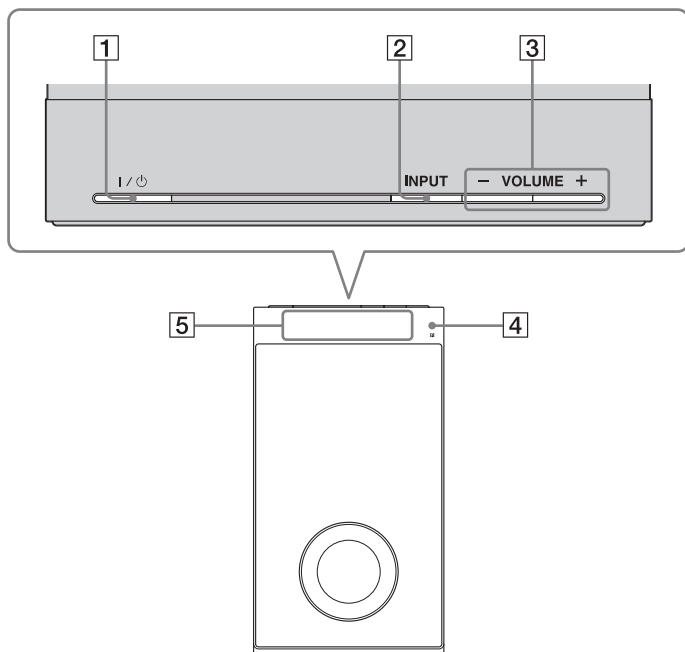
＋と－の向きを合わせて、単3形乾電池（付属）2本を入れてください。リモコンは本機のリモコン受光部（R）に向けて操作してください。

ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

サブウーファー（本機）

1 **I/⏻（電源）ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **INPUT（入力切換）ボタン**（インプット）

再生する入力ソースを選びます。
ボタンを押すたびに、入力ソースは次のように切り換わります。
TV → BD/DVD → GAME → SAT/CATV → VIDEO → LINE IN → TUNER FM → TV …

3 **VOLUME（音量）＋／－ボタン**（ボリューム）

本機の音量を調節します。

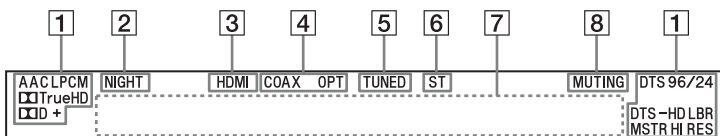
4 **Ⓡ（リモコン受光部）**

リモコンをここに向けて操作してください。

5 **表示窓**

本機の状態を表示します。

次のページへつづく

表示窓（サブウーファー）

1 **音声フォーマット表示**

本機に入力されている音声フォーマットが点灯します。

AAC：Advanced Audio Coding

LPCM：リニアPCM

TrueHD：Dolby TrueHD

D：Dolby Digital

D+：Dolby Digital Plus

DTS

DTS 96/24*

DTS-HD LBR：DTS-HD Low Bit Rate

DTS-HD MSTR：DTS-HD Master Audio

DTS-HD HI-RES：DTS-HD High Resolution Audio

* サウンドフィールドが「2CH STEREO」のときにこのフォーマットが入力されると点灯します。他のサウンドフィールドの場合は、点灯しません。

2 NIGHT（42ページ）

NIGHT MODEのときに点灯します。

3 HDMI（16ページ）

HDMI信号が入力されているときに点灯します。または、本機の入力が「TV」の場合、オーディオリターンチャンネル（ARC）の信号が入力されているときに点灯します。

4 COAX/OPT

デジタル入力端子（COAXまたはOPT）が使われているときに点灯します。

5 TUNED（29ページ）

FMラジオ局を受信したときに点灯します。

6 ST（29ページ）

FMラジオのステレオ放送を受信したときに点灯します。

7 **メッセージ表示領域**

音量や選ばれている外部入力などを表示します。

8 MUTING

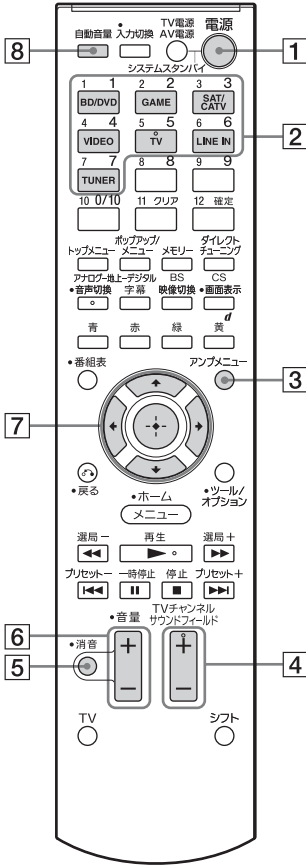
消音機能が有効になっているときに点灯します。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。つないだ機器の操作については、35ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、本機のリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。

＊ 数字ボタンの5、および音声切換ボタン、►ボタン、サウンドフィールド+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

1 **電源ボタン**

2 **入力ボタン**

使用する機器を選びます。

3 **アンプメニューボタン**（40ページ）

4 **サウンドフィールド＋／－ボタン**（33ページ）

5 **消音ボタン**

6 **音量＋／－ボタン**

7 **←/↑/↓/→、⊕**

←、↑、↓、→ボタンを押して設定を選び、⊕ボタンで決定します。

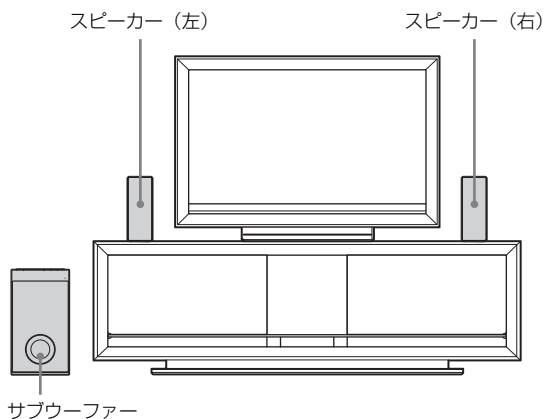
8 **自動音量ボタン**

再生中の音量の変化を少なくします（ADVANCED AUTO VOLUME機能）。例えば、CM の音量が番組の音量より大きいときなどに有効です。

ご注意

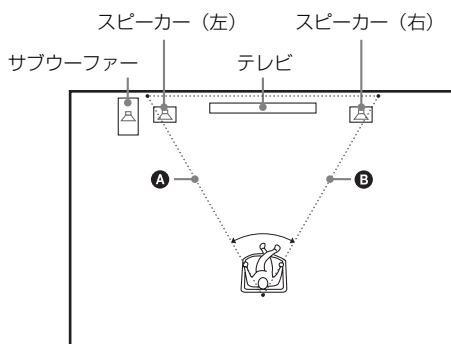
- CDを聞く際には適しません。
- 入力信号が、Dolby Digital、AAC、DTSおよびリニアPCMのときのみ働きます。自動音量機能が動作中に、その他のフォーマットに切り換えた場合、急に音が大きくなることがあります。

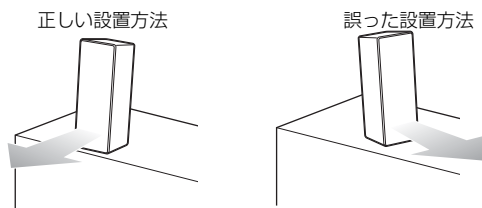
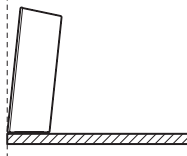
本機を設置する

下図は本機とスピーカーの設置のしかたの例です。

ご注意

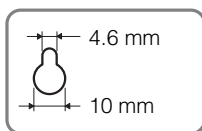
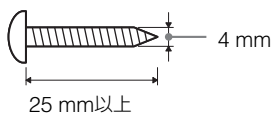
- サブウーファーの背面にものを置いて、通風孔をふさがないでください。
- サブウーファーのグリルネットをふさがないでください。
- リモコンの信号を受信しやすくするために、サブウーファーはラックなどの前方に揃えて置くことをおすすめします。

平らな場所にスピーカーを設置する

スピーカーを効果的に使用するには左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離（Ⓐと Ⓑ）に設置してください（7.0 m以内）。

- 左右のスピーカーの間隔は、スピーカーとリスニングポジションの距離と同じにしてください（左右のスピーカーとリスニングポジションで正三角形を描くように）。
- 左右のスピーカーの間隔が0.6 m以上となるように設置してください。
- スピーカーはテレビの前方に設置してください。スピーカーとの間に障害物を置かないでください。

• スピーカーは前方正面に向けて設置してください。斜めに向けて設置しないでください。

• 音の反響を防ぐため、スピーカーはラックなどの前方に設置することをおすすめします。

スピーカーを壁に取り付ける

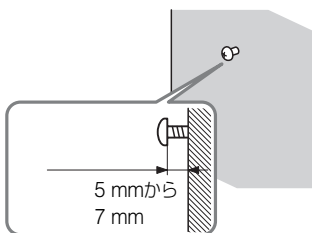
下記の手順でスピーカーを壁に取り付けることができます。

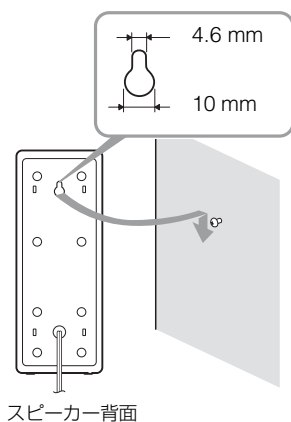
1 スピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。

スピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から5 mmから7 mm突き出すようにとめてください。

接続と準備

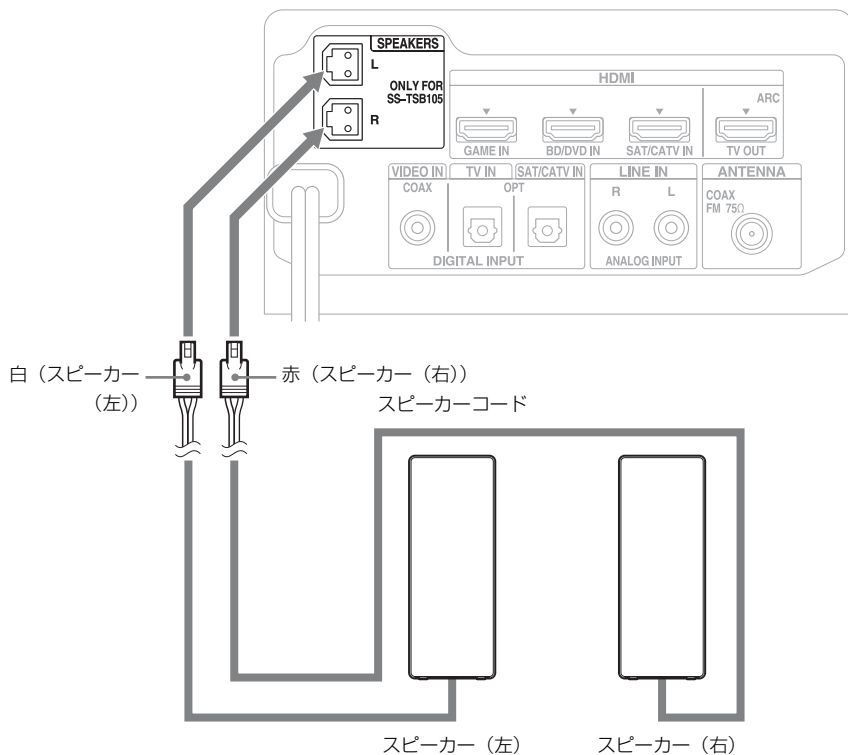
次のページへつづく

3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

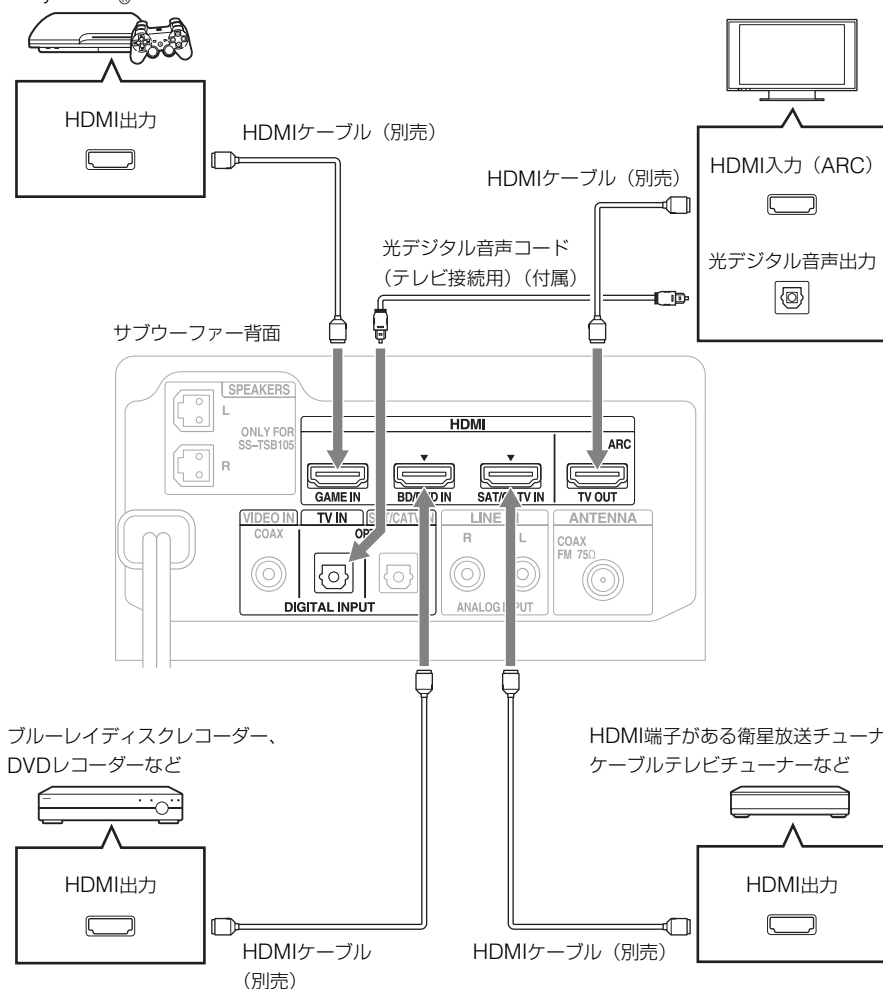
スピーカー背面

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

スピーカーをつなぐ

スピーカーコードのコネクターはスピーカーの種類に合わせて色分けされています。スピーカーコードは、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。

接続と準備

テレビやレコーダーなどをつなぐ

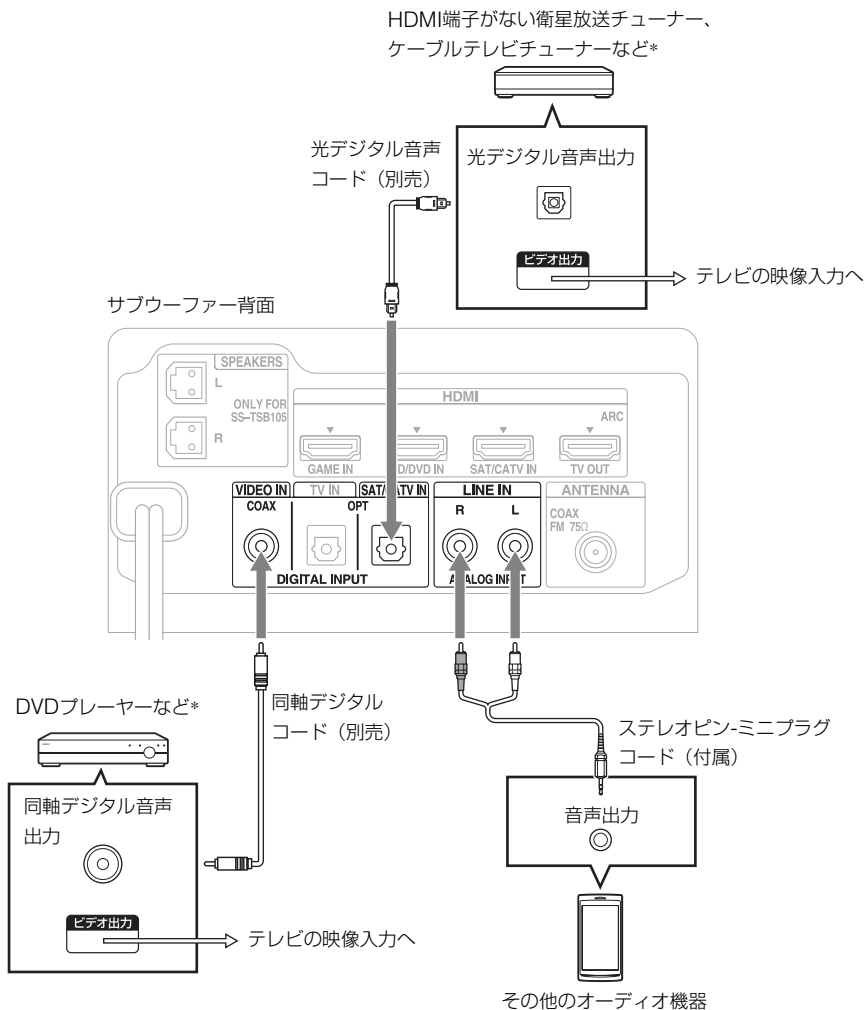
HDMI端子があるテレビやレコーダー、衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーなどをつなぐには、HDMIケーブルを使用します。
“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルでつなぎ、つないだ機器の設定をテレビ側で行うと、便利な「“ブラビアリンク”機能」が使えます（23ページ）。
本機には、“ブラビアリンク”に対応した機器をつなぐことをおすすめします。

ご注意

- 本機のHDMI入力端子の機能はどれも同じです。ブルーレイディスクレコーダーに加えてDVDレコーダーなどをつなぐ場合は、空いている端子につなぎます。
- 本機はオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しています。オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビのHDMI入力端子につないだ場合、光デジタル音声コードの接続は不要です。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビのHDMI入力端子には「ARC」と表記されています。それ以外のHDMI入力端子につないでも、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は働きません。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能はHDMI機器制御機能がオン（入）のときに有効です。本機のHDMI機器制御機能をオフ（切）にした場合は、光デジタル音声コードを接続してください。
- 機器を光デジタル（DIGITAL INPUT OPT）入力端子とHDMI端子に同時につないだ場合、お買い上げ時の設定では、HDMI端子からの信号が優先されます。

ちょっと一言

- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

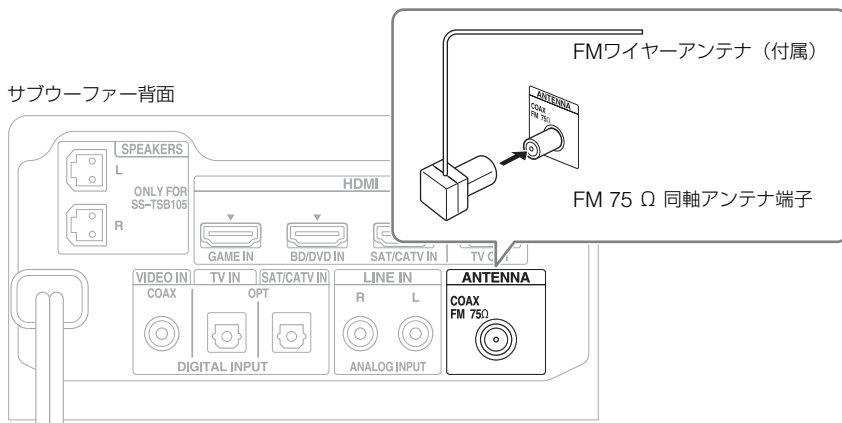
その他の機器をつなぐ

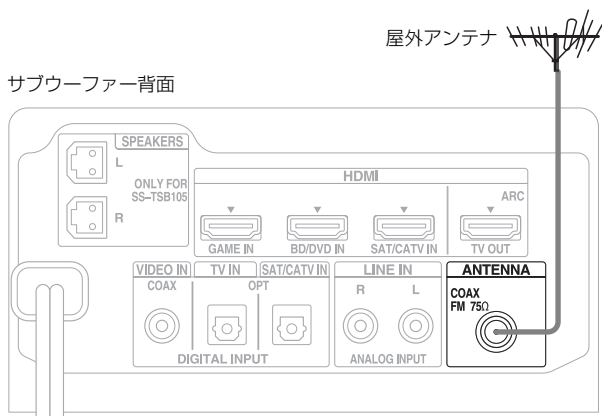
HDMI端子のない“PlayStation®2”やDVDプレーヤー、衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーなどをつなぐ場合は、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください（21ページ）。

* これらの機器をお使いになるときはHDMI機器制御機能をオフにしてお使いください。

ご注意

- LINE IN入力に携帯音楽プレーヤーなどのヘッドホン端子をつなぐときは、他の入力との音量差をなくすため、携帯音楽プレーヤー側で音量を調節してください。

FMワイヤーアンテナをつなぐ

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。

ご注意
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言
- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。

電源コードをつなぐ

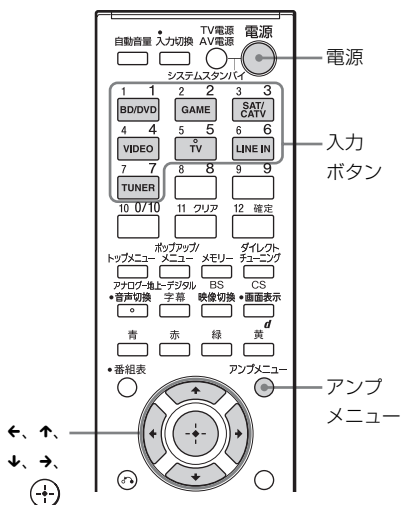
他の機器やテレビをつないでから、電源コードを壁のコンセントにつないでください。

ご注意

- 電源コードをつないで約15秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたは本機の I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。
- 本機は、コンセントの近くでお使いください。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。

“ブラビアリンク”を使う準備をする

“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルでつなぎ、つないだ機器の設定をテレビ側で行うと、複数のつないだ機器をひとつのリモコンで簡単に操作をすることができます。

“ブラビアリンク”を使うには、つないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定してください。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。

1 本機とテレビ、つないだ機器がHDMIケーブルでつながれていることを確認する。

2 本機とテレビ、つないだ機器の電源を入れる。

3 つないだ機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD/DVD、GAMEまたはSAT/CATV）を切り換える。

4 テレビのメニュー画面にHDMI機器一覧を表示し、つないだ機器のHDMI制御を有効にする。

本機とつないだ機器側のHDMI機器制御機能が自動的にオン（入）に設定されます。
設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

ご注意

- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

「COMPLETE」が表示されないときは

本機とつないだ機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。
本機のHDMI機器制御機能のお買い上げ時の設定は「ON」です。

1. アンプメニューボタンを押す。
2. ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
3. ↑/↓を繰り返し押して「CTRL HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
4. ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
   HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
5. アンプメニューボタンを押す。
   アンプメニュー画面表示が消えます。
6. HDMI機器制御機能を使用したい機器の入力（BD/DVD、GAMEまたはSAT/CATV）を本機で選択する。
7. つないだ機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
   つないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

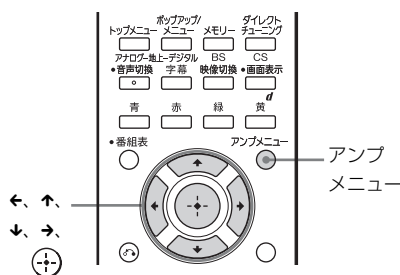
本機に再生機器を追加したり、再接続するときは

「"ブラビアリンク"を使う準備をする」（20ページ）や「「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

- テレビの「HDMI機器制御」によって、つないだ機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、つないだ機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

HDMI機器制御機能をオフ（切）にする

"ブラビアリンク"に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときなどは、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、「CTRL HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

つないだ機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。たとえば、ソニーのブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI 音声出力」が「自動」に設定されていることを確認してください。
詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”とは？

HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。

- 電源オフ連動（24ページ）
- テレビのリモコンからの操作（24ページ）
- オーディオリターンチャンネル（ARC）（24ページ）
- ワンタッチプレイ（24ページ）

さらに、ブラビアリンク対応製品では、ソニー独自の以下の機能も使うことができます。

ご注意
製品により、対応しないものがあります。

- 省電力機能（25ページ）
- オートジャンルセレクター（25ページ）
- シーンセレクト連動（25ページ）
- オーディオ機器コントロール（25ページ）

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

ご注意
- 上記の機能は、他社製品との間でも操作ができる場合がありますが、その動作についての保証はいたしかねます。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も連動して切ることができます。

電源ONについて

前回、本機で音を出していた場合は、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入ります。
他のつないだ機器の電源を入れるには、個別に操作する必要があります。
テレビのホームメニューから操作できる場合もあります。

ご注意

- テレビのスピーカーから音が出ている状態でテレビの電源を切った場合、次にテレビの電源を入れても、本機の電源は入りません。
- つないだ機器の状態によっては、その機器の電源を切ることができない場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビのリモコンからの操作

テレビのリモコンによる簡単な操作でテレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。また、音量の調整と消音ができます。

本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音が出ます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れてから音声が出力されるまでに、時間がかかることがあります。
- お使いのテレビによっては、テレビの音量を変えたときと同じように、テレビ画面に本機の音量を示す数字が表示されますが、テレビ画面の数字と本機の表示窓の数字が異なることがあります。

オーディオリターンチャンネル（ARC）

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応したテレビを、HDMIケーブルで本機につなぐと、テレビのデジタル音声信号が本機に伝送されます。その場合、光デジタル音声コードをつなぐ必要はありません。
オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を使用しない場合はテレビと本機を光デジタル音声コードでつなぎ、本機のアンプメニューで「ARC」をオフ（切）に設定してください。
詳しくは、「オーディオリターンチャンネルの設定をする（ARC）」（43ページ）をご覧ください。

ワンタッチプレイ

つないだ機器を再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、入力が切り換わります。

ご注意

- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

ちょっと一言

- 前回、テレビのスピーカーから音を出していた場合は、本機の電源は入りませんが、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

省電力機能

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、テレビの電源を切ると、HDMI信号の伝送を停止して、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。
お買い上げ時の設定ではこの機能が有効になっています。
“ブラビアリンク”に対応していないテレビをお使いの場合は、常に省電力機能が働く場合がありますので、本機のアンプメニューで「PASS THRU」を「ON」に設定してください。
詳しくは、「省電力機能を使う（PASS THRU）」（43ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機のアンプメニューで「CTRL HDMI」が「ON」のときのみ設定できます。
- 本機のアンプメニューで「PASS THRU」が「ON」の場合、本機は電源が切れた状態でも、約1 Wの電力を消費します。

オートジャンルセレクター

「オートジャンルセレクター」に対応のテレビをお使いのときは、視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます。
詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える（SOUND.FIELD）」（42ページ）をご覧ください。

シーンセレクト連動

「シーンセレクト連動」に対応のテレビをお使いのときは、テレビのシーンセレクトに連動して本機のサウンドフィールドも自動的に切り換えることができます。

テレビのリモコンのシーンセレクトボタンを押す。

テレビのシーンセレクトに応じてサウンドフィールドが切り換わります。

オーディオ機器コントロール

「オーディオ機器コントロール」に対応したテレビをお使いのときは、画面の右側に操作用のウィジェット（子画面）が表示されます。テレビのリモコンで、入力やサウンドフィールドの切り換えを操作できます。音質設定ではスピーカーの再生レベルやBASS（低音）、TREBLE（高音）レベルの調整もできます。

ご注意

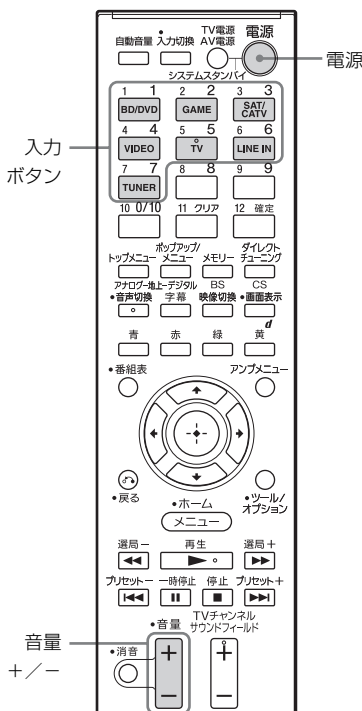
- 「オーディオ機器コントロール」のご利用には、テレビのブロードバンド接続環境が必要です。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。

次のページへつづく

- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- 本機の入力が「TV」のときは、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（BD/DVD、GAMEまたはSAT/CATV）の映像が出力されます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”および3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®3”など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

本機のリモコンで操作する

1 つないだ機器を再生する。

2 本機の電源を入れる。

3 再生したい機器の入力ボタンを押して、本機の表示窓に入力名を表示させる。

選んだ入力	再生する機器
TV	TV IN端子につないだテレビなど
BD/DVD	BD/DVD IN端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
GAME	GAME IN端子につないだゲーム機など

選んだ入力	再生する機器
SAT/CATV	SAT/CATV IN端子につないだBS/CSチューナーなど
VIDEO	VIDEO IN端子につないだDVDプレーヤーなど
LINE IN	LINE IN端子につないだオーディオ機器など
TUNER FM	内蔵のFMラジオ

4 **映像機器の場合、テレビの入力を、本機とつないでいるHDMI入力に切り換える。**

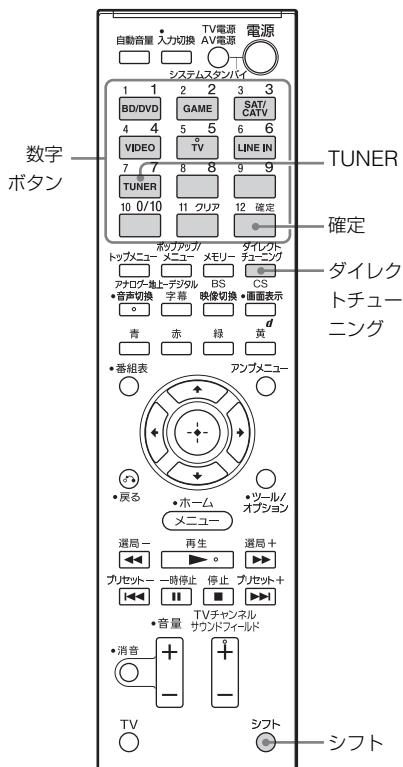
詳しくは、テレビに付属の説明書をご覧ください。

5 **音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。**

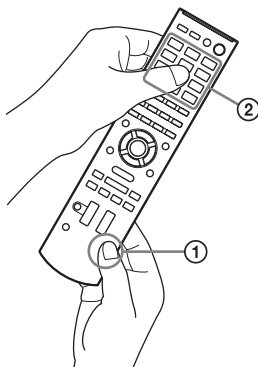
ちょっと一言

- “ブラビアリンク”に対応した機器をつないだ場合は、手順2から手順4は自動で行われます。
- “ブラビアリンク”に対応していないテレビをお使いの場合は、テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ラジオを聞く

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。

1 TUNERボタンを押す。
表示窓に「TUNER FM」が表示されます。

2 ダイレクトチューニングボタンを押す。

3 シフトボタン（①）を押しながら、数字ボタン（②）を押して、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。
例：「88.0MHz」を選局するときは、シフトボタンを押しながら次のように数字ボタンを押します。
8 → 8 → 0

4 シフトボタンを押しながら、確定ボタンを押す。

放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。正しい周波数が入力されていない場合は、手順2 ～ 4をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局登録できます。よく聞く放送局は登録しておくと便利です。受信を始める前に、音量を最小にしてください。

1 TUNERボタンを押す。

2 選局＋／－ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「TUNED」、「ST」（FM局のステレオ放送を受信したとき）が点灯します。

3 メモリーボタンを押す。

4 ↑/↓でプリセット番号を選ぶ。

5 ⊕を押す。

表示窓に「COMPLETE」と表示され、放送局が登録されます。

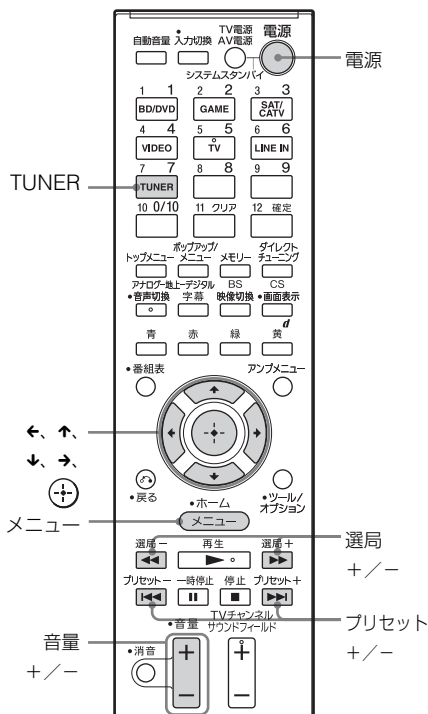
TUNED ST
COMPLETE

6 手順2～5を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

登録した放送局を聞く

先に「放送局を登録する （プリセット）」（29ページ）で放送局を登録してください。

1 TUNERボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 プリセット＋／－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

シフトボタンを押しながら数字ボタンを押して、登録した放送局のプリセット番号を選ぶこともできます。

3 音量を調節する。

登録していない放送局を聞くには

手動または自動で受信します。

手動受信は、「ラジオを聞く」（28ページ）をご覧ください。

自動受信は、手順2でリモコンの選局＋または－を押し続けます。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

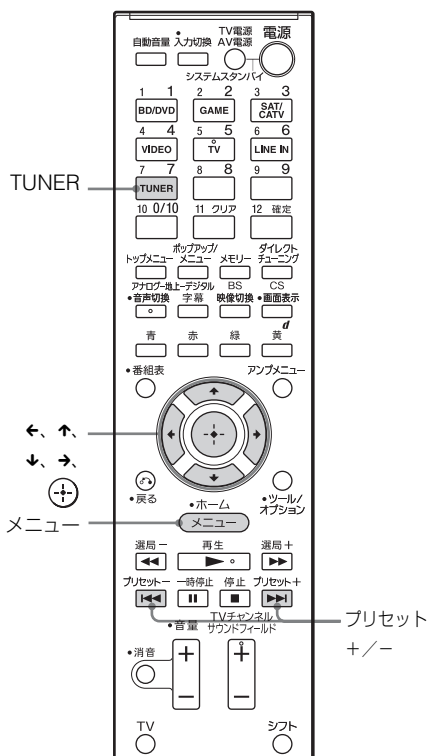
FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1. メニューボタンを押す。
2. ↑/↓で表示窓の「FM MODE」を選び、⊕または→を押す。
3. ↑/↓で「MONO」を選ぶ。
   お買い上げ時の設定は下線の項目です。
   - STEREO：ステレオ放送をステレオ受信します。
   - MONO：モノラル受信します。
4. ⊕を押す。
5. メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

登録した放送局に名前をつける

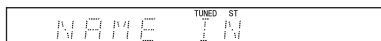
登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。文字は10字まで入力できます。
登録した放送局には、それぞれひとつの名前しかつけることができません。

1 TUNERボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 プリセット+/−ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。

3 メニューボタンを押す。

4 ↑/↓で表示窓の「NAME IN」を選ぶ。

TUNED ST
NAME IN

5 ⊕を押す。

6 ←、↑、↓、→で名前をつける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。

7 ⊕を押す。

表示窓に「COMPLETE」が表示され、放送局の名前が登録されます。

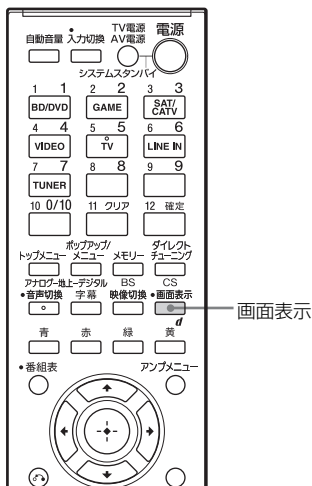
TUNED ST
COMPLETE

8 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示窓で周波数を確認することができます（32ページ）。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。

画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り換わります。

① 放送局名*

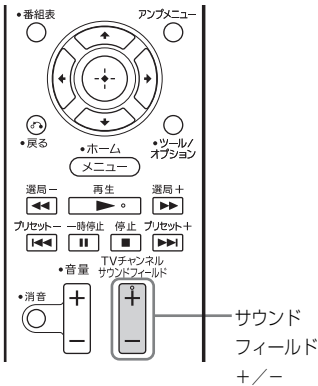
② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます。

**数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

サラウンド効果を楽しむ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。

サウンドフィールドを確認する

サウンドフィールド＋／－ボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドを選ぶ

サウンドフィールド＋／－ボタンを押す。

サウンドフィールド＋／－ボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

STANDARD ↔ MOVIE ↔ DRAMA ↔ NEWS ↔ SPORTS ↔ GAMING ↔ MUSIC ↔ 2CH STEREO ↔ P.AUDIO* ↔ STANDARD .....

* LINE IN入力のときのみ「P.AUDIO」が表示されます。

サウンドフィールドのお買い上げ時の設定は、入力が「LINE IN」のときは「P.AUDIO」、その他の入力のときは「STANDARD」です。

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD	どんなソースにも幅広く対応します。
MOVIE	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
DRAMA	テレビドラマに最適な音質で楽しめます。
NEWS	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
SPORTS	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAMING	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
MUSIC	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。
2CH STEREO	音楽CDに最適な音質です。

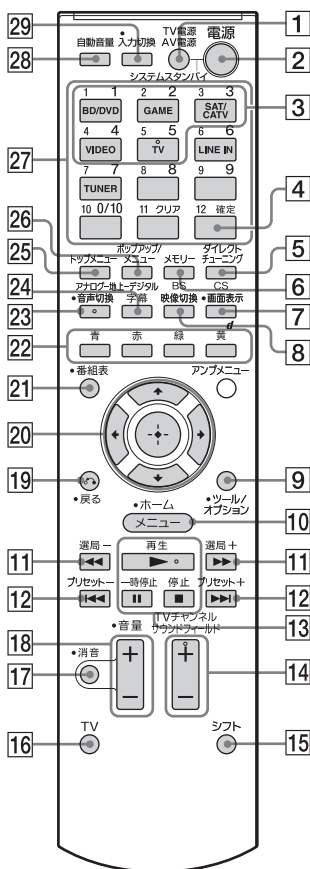
次のページへつづく

サウンドフィールド	効果
P.AUDIO	圧縮音声で失われてしまう高域音場を補正し、スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどの音源も音場豊かに再現します。LINE IN入力のときのみ有効です。

ちょっと一言

- サウンドフィールドは入力ごとに設定できます。
- アンプメニューで「CTRL HDMI」が「ON」に設定され、かつ「SOUND.FIELD」が「AUTO」に設定されているときは、視聴中のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- 「CTRL HDMI」が「ON」のときに、ソニー製テレビのリモコンのシアターボタンを押すと、サウンドフィールドが「MOVIE」に切り換わります（一部のソニー製テレビをのぞく）。

つないだ機器をリモコンで操作する

ソニー製の機器を本機のリモコンで操作できます。つないだ機器によっては、操作できない場合があります。そのようなときは、各機器のリモコンから操作してください。

＊ 数字ボタンの5、および音声切換ボタン、► ボタン、サウンドフィールド+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

つないだ機器を操作するには

1 操作したい機器を登録した入力ボタン3（BD/DVD、GAME、SAT/CATV、TV）を押す。

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 次の表を参照して、ボタンを押す。

共通する操作

ボタン	機能
1 TV電源 AV電源 （電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作できるソニー製のテレビ、オーディオ、ビデオの電源を入／切します。1TV電源／AV電源ボタンと2電源ボタンを同時に押して、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
4 確定	15シフトボタンを押しながら、4確定ボタンを押して選択を確定します。
9 ツール／オプション	そのときできる便利な機能を一覧表示します。
20 ←、↑、↓、→、(+)	矢印ボタンで項目を選び、(+)で確定します。
22 カラーボタン	テレビ画面に操作ガイドを表示します（表示されない場合もあります）。ガイドに従って操作してください。

次のページへつづく

ボタン	機能
27 数字ボタン	チャンネルやトラック、チャプターなどを選びます。テレビの場合は、16TV（黄色）ボタンを押しながら、27数字ボタンを押します。12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。他の機器の場合は、15シフトボタンを押しながら、ピンクのプリントがされた27数字ボタンを押します。

テレビを操作するには

16TV（黄色）ボタンを押しながら、黄色の点がついたボタンまたは黄色のプリントがされたボタンを押す。

ボタン	機能
5 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます。
6 BS	BSデジタル放送に切り換えます。
7 画面表示、d	テレビ画面上に情報を表示します。 また、15シフトボタンを押しながら画面表示ボタンを押すと、テレビ画面上に番組連動データを表示します。
9 ツール／オプション	そのときできる便利な機能を一覧表示します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
14 TVチャンネル＋／−	チャンネルを切り換えます。
17 消音	消音します。
18 音量＋／−	音量を調節します。
19 戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
21 番組表	番組表を表示します。
23 音声切換	音声フォーマットや言語を切り換えます。
25 地上アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
26 地上デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
29 入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン	機能
8 映像切換	マルチアングルで録画されたディスクを再生する場合、映像のアングルを変更します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
11 ◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
12 ⏮／⏭	前や次のタイトル／チャプターの先頭に進みます。
13 ▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
24 字幕	字幕対応のディスクを再生する場合、字幕の言語を選びます。
25 トップメニュー	トップメニューやディスクメニューを表示します。
26 ポップアップ／メニュー	BD-ROMのポップアップメニュー、またはディスクのメニューを表示します。
29 入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン	機能
8 映像切換	マルチアングルで録画されたディスクを再生する場合、映像のアングルを変更します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
11 ◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
12 ⏮/⏭	チャプターをスキップします。
13 ▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
24 字幕	字幕対応のディスクを再生する場合、字幕の言語を選びます。
25 トップメニュー	トップメニューやディスクメニューを表示します。
26 ポップアップ／メニュー	BD-ROMのポップアップメニュー、またはディスクのメニューを表示します。
29 入力切換	入力を切り換えます。

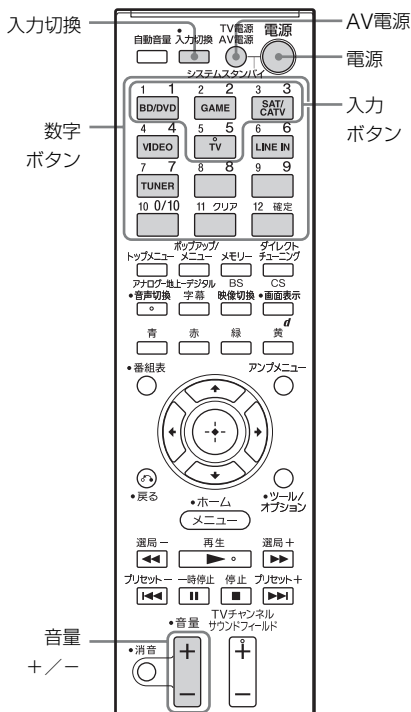
衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

ボタン	機能
7 画面表示	画面表示が切り換わります。
10 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
21 番組表	番組表を表示します。
24 字幕	字幕がある番組で、字幕を表示します。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する

お使いの機器がソニー製の場合は、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをBD/DVD端子につないだとき、BD/DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのVIDEO、LINE IN、TUNERボタンの設定は変更できません。

1 **登録したい入力ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。**
例：BD/DVDボタンを押しながらAV電源ボタンを押す。

2 **AV電源ボタンを押したまま、手順1で押している入力ボタンをはなす。**
例：AV電源ボタンを押したまま、BD/DVDボタンをはなす。

3 **AV電源ボタンを押したまま、次の表を参照して、登録したい機器の数字ボタンを押す。**
例：AV電源ボタンを押したまま、1を押す。

4 **手順3で押した数字ボタンをはなし、次にAV電源ボタンをはなす。**
例：1をはなし、次にAV電源ボタンをはなす。
BD/DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できます。

お使いの機器をBD/DVD、GAME、SAT/CATV、TVボタンに登録するには

機器	数字ボタン
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	1
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）[1]	2
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	3
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）	4
TV [2]	5
TV [2] [3]	6
CSデジタルチューナー	7

[1] お買い上げ時は、BD/DVDボタンに登録されています。
BD1とBD3の設定について、詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー、またはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

[2] TVボタンの設定によって操作内容が異なります。

[3] CATVチューナーを登録する場合は、この設定をおすすめします。

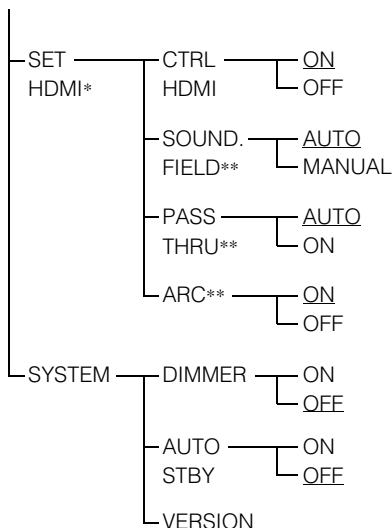
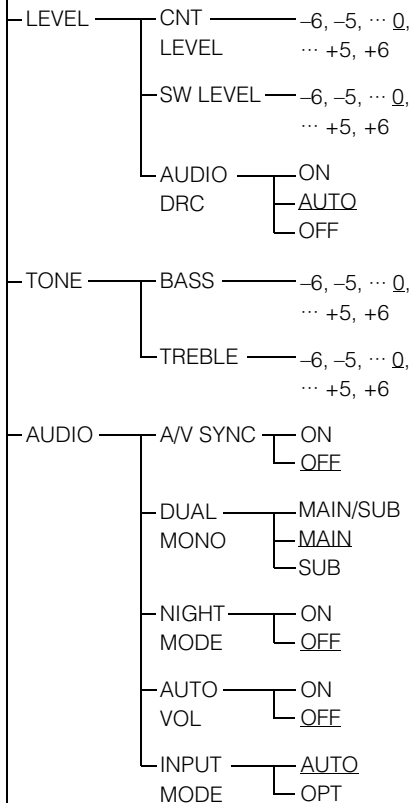
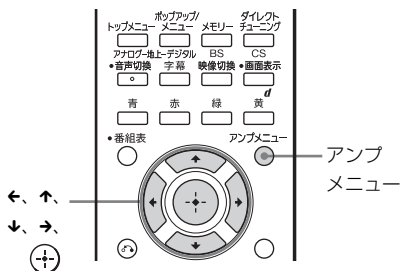
リモコンに登録した設定を消去するには

リモコンの音量－ボタンを押しながら、続けて電源ボタンを押し続け、最後に入力切換ボタンを押し続けます。最後にすべてのボタンをはなします。

リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。
電源コードを抜いても、お客様の行った設定は保持されます。

* 詳しくは、「“ブラビアリンク”を使う準備をする」（20ページ）をご覧ください。
**これらの設定は「CTRL HDMI」が「ON」のときのみ表示されます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

センターとサブウーファーのレベルを設定する（CNT LEVEL、SW LEVEL）

本機は、センターの音を左右のスピーカーから再生します。
センターとサブウーファーのレベルを設定します。「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。

- 「CNT LEVEL」：センターのレベルを調節します。
- 「SW LEVEL」：サブウーファーのレベルを調節します。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックの音声のダイナミックレンジを圧縮します。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタル、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD の音声に対応しています。

- 「ON」：コンテンツ内の情報に基づいて音声を圧縮します。
- 「AUTO」：Dolby TrueHDのとき、自動的に音声を圧縮します。
- 「OFF」：音声は圧縮されません。

音質を調整する（BASS、TREBLE）

音声の低域、高域のレベルを調整します。
「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。

- 「BASS」：音声の低域を調整します。
- 「TREBLE」：音声の高域を調整します。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせます。

- 「ON」：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節します。
- 「OFF」：A/V SYNC機能を使用しません。

ご注意

- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合があります。

AAC（2か国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、デジタルテレビで採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2か国語放送にも対応しています。
AAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などでAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。

- 「MAIN/SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。

次のページへつづく

小さな音量で聞く（NIGHT MODE）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

- 「ON」：NIGHT MODE機能を使用します。
- 「OFF」：NIGHT MODE機能を使用しません。

ちょっと一言

- AUDIO DRC（41ページ）を使うと、小さな音量でもドルビーデジタルを楽しめます。

再生中の音量の変化を少なくする（AUTO VOL）

CMの音量が番組の音量より大きいときなどに有効です。

- 「ON」：AUTO VOL機能を使用します。
- 「OFF」：AUTO VOL機能を使用しません。

衛星放送チューナーからの音声を選択する（INPUT MODE）

HDMIケーブルをつないだだけではマルチチャンネル音声を出力できない衛星放送チューナーの場合、光デジタル音声コードもつないだうえで、この設定を行います。

- 「AUTO」：HDMI SAT/CATV入力端子からの音声信号を優先して出力します。
- 「OPT」：OPT SAT/CATV IN端子からの信号を出力します。

HDMI機器制御機能の設定をする（CTRL HDMI）

HDMI機器制御機能の設定を変更します。

- 「ON」：HDMI機器制御機能をオン（入）にします。
- 「OFF」："ブラビアリンク"に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときはこの設定を選びます。

デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える（SOUND.FIELD）

サウンドフィールドの設定を変更します。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。（オートジャンルセレクター）
- 「MANUAL」：サウンドフィールド＋／－ボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARD

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

ちょっと一言

- ブルーレイディスクやDVDを再生しているときのサウンドフィールドは「STANDARD」になります。この場合、本機のリモコンでお好みのサウンドフィールドに切り換えることもできます。詳しくは、「サラウンド効果」（33ページ）をご覧ください。

省電力機能を使う（PASS THRU）

テレビの電源を切ると、HDMI信号の伝送を停止して、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。

- 「AUTO」：本機のスタンバイ時に、テレビの電源を入れると本機のHDMI出力端子から信号を出力します。
  “ブラビアリンク”対応のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。
  「ON」設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。
- 「ON」：本機のスタンバイ時に、HDMI出力端子から常に信号を出力します。

ご注意

- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。

オーディオリターンチャンネルの設定をする（ARC）

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能の設定を変更します。

- 「ON」：オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビをHDMIケーブルで本機に接続している場合はこの設定を選びます。
- 「OFF」：光デジタル音声コードで接続している場合はこの設定を選びます。

表示窓の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節します。

- 「ON」：表示窓の明るさが暗くなります。
- 「OFF」：通常の明るさです。

オートスタンバイ機能（AUTO STBY）

本機を操作しないまま一定時間（約30分）が経過し、本機に音声が入力されていないとき、本機の電源を自動的に切り、無駄な電力消費を抑えます。

- 「ON」：オートスタンバイ機能を使用します。
- 「OFF」：オートスタンバイ機能を使用しません。

ご注意

- この機能によって本機の電源が切れた場合、次にご使用になるときに、テレビの電源オンに連動せずに、本機の電源がオンにならないことがあります。

本機のバージョンを確認する（VERSION）

表示窓に本機のバージョン情報が現れます。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- アンプメニューの「CTRL HDMI」が「OFF」に設定されていたら、「CTRL HDMI」を「ON」に設定する（42ページ）。
- テレビのスピーカー設定を確認する。
本機の電源は、テレビのスピーカー設定に連動します。
- 前回電源を切ったときに、テレビのスピーカーから音声が出ていた場合、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

電源オフ連動機能が働かない

- テレビの電源を切るとつないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- HDMI機器制御機能をオン（入）に設定したときは、電源オフ連動機能が働き、テレビの電源を切ると、本機の電源が切れます。

本機の電源が勝手に切れてしまう

- オートスタンバイ機能が働いています（43ページ）。

音声

音が出ない

- HDMI機器制御機能のない機器をつなぐ場合は本機のリモコンかパネルを使って、入力を切り換えてください。
- 接続を確認してください（16、18ページ）。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

- ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。
- ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなど、本機につないでいる機器の音声設定を確認する。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感（33ページ）が得られないことがあります。番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- サラウンド効果機能対応のブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなどをつないでいる場合には、本機のサラウンド効果が得られないことがあります。その場合には、つないだ機器のサラウンド機能の設定をオフにしてください。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機からテレビの音声が出ない

- テレビと本機をつないでいる光デジタル音声コード、またはアナログ音声コードの接続を確認する（16ページ）。
- テレビの音声出力設定を確認する。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビをお使いの場合、HDMI機器制御機能およびオーディオリターンチャンネル（ARC）設定をオン（入）にしてください。

本機とテレビの両方から音が出る

→ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選択した機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V SYNC」がオン（入）に設定されていたら、「A/V SYNC」をオフ（切）に設定する。

スピーカーまたはサブウーファーからつないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

→ 番組やディスクによっては、低音成分が少ない場合があります。お好みでサブウーファーレベルを調整してください（41ページ）。

→ 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。

→ 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。

→ つないだ機器が正しく選択されているか確認する。

→ つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

→ つないだ機器のHDMI設定を確認する。

一部のスピーカーから音が出ない

→ スピーカー端子が奥までしっかり差し込まれているか確認する。

音が途切れたり、ノイズが出る

→「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（48ページ）。

本機の電源を入れたあと、本機の音声が出力されるまで時間がかかる

→ 次の場合、本機の電源を入れたあと、本機から音声が出力されるまでに時間がかかることがあります。

- 本機にHDMI接続した機器のうち、一部の機器がHDMI機器制御に対応していない場合
- 一部の機器でHDMI機器制御機能をオフ（切）にしている場合

このような場合は、本機につないだすべての機器のHDMI機器制御機能をオン（入）にするか、本機を含むすべての機器のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしてからお使いください。

映像

テレビ画面に映像が出ない

→ テレビと本機を正しくつないでいるか確認する。

→ 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。

→ 本機のリモコンの入力ボタンで入力を切り換える。

→ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。

→ 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

→ つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する（16、18ページ）。

テレビ画面に3D映像が出ない

→ テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D表示できない場合があります。本機が対応する3D映像フォーマットをご確認ください（48ページ）。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

→ アンプメニューの「CTRL HDMI」が「OFF」に設定されていたら、「CTRL HDMI」を「ON」に設定する（42ページ）。

→ 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。

次のページへつづく

→ “ブラビアリンク”に対応していない機器をつないでいる場合は、アンプメニューの「PASS THRU」が「ON」に設定されているか確認する（43ページ）。

リモコンが機能しない

→ 本機の🅁受光部に向けて操作する。
→ リモコンと本機との間に障害物を置かない。
→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

→ HDMI接続を確認する（16ページ）。
→ テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う（20ページ）。
→ つないだ機器が“ブラビアリンク”に対応していることを確認する。
→ つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
→ HDMI接続を変更したときは、「“ブラビアリンク”を使う準備をする」（20ページ）の手順を再度行ってください。
→ 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、“ブラビアリンク”が影響して音声が出ないことがあります。その場合、“ブラビアリンク”（HDMI機器制御機能）をオフ（切）にする（21ページ）か、音声出力端子もテレビにつないでください。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

→ 本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

これらの処置をしても正常に動作しないときは—リセット

本機側のボタンを下記の手順で操作します。

1 I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。

2 本機のINPUT、VOLUME－を押しながら、I/⏻（電源）ボタンを押す。
表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-FS30
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
Dolby Digital Plus	○*
Dolby TrueHD	○*
DTS	○
DTS 96/24	○
DTS-HD Master Audio	○*
DTS-HD High Resolution Audio	○*
DTS-HD Low Bit Rate	○*
MPEG2-AAC	○
リニアPCM 2ch 48kHz以下	○
リニアPCM最大7.1ch 192kHz以下	○*

＊ HDMI接続のみで入力可能です。

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA＊）
フロント部：133 W + 133 W（1kHz、3Ω）
サブウーファー部：134 W（100Hz、3Ω）

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

入力端子
LINE IN　アナログ
TV IN、SAT/CATV IN　デジタル（光）
VIDEO IN　デジタル（同軸）

HDMI部

コネクター　HDMI®コネクター
ビデオ入出力　BD/DVD、GAME、SAT/CATV：
640 × 480p、59.94/60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1280 × 720p、29.97/30 Hz
1920 × 1080p、29.97/30 Hz
1280 × 720p、23.98/24 Hz
1920 × 1080p、23.98/24 Hz
Deep Color：30bit/36bit

ビデオ入出力（3D）
1280 × 720p 59.94/60 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080i 59.94/60 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080p 59.94/60 Hz
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1280 × 720p 50 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080i 50 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080p 50 Hz
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080p 23.98/24 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1920 × 1080p 29.97/30 Hz
- Frame packing
- Side-by-Side (Half)
- Over-Under (Top-and-Bottom)

1280 × 720p 23.98/24 Hz
Frame packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under
(Top-and-Bottom)
1280 × 720p 29.97/30 Hz
Frame packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under
(Top-and-Bottom)
Deep Color：30bit/36bit

オーディオ入力
BD/DVD、GAME、SAT/CATV：「本機で対応するデジタル入力フォーマット」（48ページ）をご覧ください。

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式

FMチューナー部

受信周波数　76.0－90.0 MHz（100 kHz間隔）

アンテナ　ワイヤーアンテナ 75 Ω、不平衡型

スピーカー（SS-TSB105）

形式　フルレンジスピーカーシステムバスレフ型

使用スピーカー
55 mm × 80 mmコーン型

定格インピーダンス
3 Ω

最大外形寸法（約）
85 mm × 220 mm × 95 mm（突起部分を含む）（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　0.46 kg

サブウーファー（SA-WFS30）

形式　サブウーファーシステムバスレフ型

使用スピーカー
130 mmコーン型

定格インピーダンス
3 Ω

最大外形寸法（約）
175 mm × 325 mm × 368 mm（幅／高さ／奥行き）

質量（約）　7.5 kg

一般

電源　AC 100 V、50/60 Hz

消費電力　電気用品安全法による表示：75 W
スタンバイ状態のとき：0.3 W以下

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートオフ機能。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ら行

A-Z

ブラビアリンクガイドページ
ブラビアリンクの接続や対応機器などに関する情報は、下記ホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/bravialink/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.jp/support/

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ··········0120-333-020	フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

x.v.Color

　Printed in Malaysia

(3)